

令和5年度第2回 監査機関同士の意見交換 概要

1 開催日時

令和6年3月7日（木）9時30分～10時

2 場所

東京体育館第二会議室

3 出席者

- ・監事 中山 正雄、飯塚 幸子
- ・EY 新日本有限責任監査法人 業務執行社員 小野寺 勝 ほか
- ・デフリンピック準備運営本部監査室 塩田 孝一 ほか

4 概要

監査室から「令和5年度内部監査報告書」及び「令和6年度内部監査計画（案）」について説明し、三者で意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・ 内部監査は網羅的に行われており、リスクの未然防止に向けて対策を講じている。監査室のヒアリングにより、運用面を確認している点は安心である。
- ・ 内部統制の整備はしっかり行われている。今後、デフリンピック事業がどのような形で運営されているか、適切にガバナンスが確保されているか、監査で確認していくことが必要である。大会が近づくと注目度が上がるため、適切なガバナンスの確保が一層重要になる。
- ・ 不正はどんなに完璧な組織でも起こり得る。不正の未然防止対策を完璧に行うには相当な管理コストを要するため、監査による牽制や職員一人ひとりの意識が重要である。
- ・ 大会までの準備期間が短いため、職員の意識や雰囲気を高めていくことが大事である。
- ・ リスクや事故の未然防止に向けて、研修は事実に基づいた具体的な内容にすると、職員の意識改善につながる。

意見交換の結果、

- ・ 本日はいただいた意見はデフリンピック準備運営本部内で共有し、内部監査を進めていく。
- ・ 各監査において気づきや懸念点等があれば共有する。
- ・ 次回の意見交換は6月に実施予定などを申し合わせた。